

4 令和7年度学校運営評価総括表（令和7年4月－令和8年3月）

●評価は、Ⅰ～Ⅷの各カテゴリーごとの項目を「5 良い 4 やや良い 3 普通 2 やや不十分 1 不十分」で採点し、その平均点として表したものである。（別紙参考資料）

カテゴリー ・項目数	自己評価	学校評価委員会評価
Ⅰ 学校経営 (3 項目)	評価点【 4.8 】 Ⅰ「学校経営」に関する自己評価では、学校の教育理念・目的に基づいた計画的かつ組織的な運営が行われており、全体として非常に高い評価が得られた。特に、学校運営計画および中期目標の策定については、教育理念や学校の特性、前年度評価を踏まえて行われており、複数の評価指標で満点またはそれに近い結果となっている。学校の目標や方向性が明確に示され、職員会議等を通じて職員への周知・理解が図られている点は、本校の学校経営における大きな強みである。 コンプライアンスを重視した学校運営についても概ね高い評価が得られており、外部委員を含めた学校運営評価の実施や結果の公表を通して、運営の透明性と説明責任が確保されている。一方で、個人情報の取扱いに関しては、学生の実習中のメモ帳紛失や教員の業務用連絡ツールでの不適切な情報共有といった具体的な事例が挙げられ、評価点も他項目と比較してやや低い結果となった。法令や規程の理解は進んでいるものの、日常業務における実践レベルでの確認や意識の統一が課題である。学生のSNS、生成AI使用に関する指導も取り組むべき課題となっている。また、学生の人権への配慮については合理的配慮ガイドラインの実施など一定の評価を得ている。 組織全体でのチーム力については、主任教員を中心とした学年内連携の改善や、ヒヤリハット事例を共有し迅速に改善策を講じる仕組みが評価されている。しかし、副担当補の役割が不明確であることや、情報共有がタイムリーでない点が指摘されており、担当間の連携やコミュニケーションに関する評価は相対的に低い結果となっている。 次年度に向けては、学校運営計画と中期目標を基盤とした安定した学校経営を継続しつつ、①個人情報保護や学生の SNS・生成 AI 使用に関する具体的なルールの再確認と実践および学生指導、②役割分担や指示系統の明確化による組織運営の改善、③情報共有の方法・時期の見直しによるチーム力向上の必要がある。これらの改善を通して、教職員が共通理解のもとで協働し、より質の高い教育活動を展開できる学校経	評価点【 4.8 】 ・SNSと生成 AI に係る現在の指導状況について、学校はソーシャルメディアに関する規程を設けており、SNS を日常的に使う学生に対して、実習前や課外授業や行事に際してもその都度指導していくための指導計画を立てていること、また、生成 AI については活用方法により剽窃・盗用になるという指導を令和 8 年度授業要項の履修の手引きに盛り込んで対応していることを確認できた。

	営を目指していきたい。	
Ⅱ 教育課程・ 教育活動 (5 項目)	評価点【 4.9 】 Ⅱ「教育課程・教育活動」に関する自己評価は4.9～5.0と極めて高い水準であり、本校の教育課程・教育活動は教育理念および教育目標に基づき、組織的かつ安定的に運営されていると評価する。 評価項目4「教育目標(ディプロマポリシー)を明示するとともに、卒業時の到達状況を分析しているか」(評価5.0)については、教育目標の明文化および学生への周知、教員間での到達状況共有が適切に行われている。卒業時到達度評価も実施しているが、回答確認体制のさらなる徹底が今後の課題である。また、評価指標が多岐にわたり全体像が把握しにくいとの意見を踏まえ、カリキュラム評価検討会において指標の整理・精選を進め、教育成果の可視化を一層図る。 評価項目5「教育内容は教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっているか」(評価5.0)、評価項目6「体系的なカリキュラム運営が行われているか」(評価4.9)については、単年度目標として掲げた「カリキュラム評価計画に沿った評価の実施」に基づき、計画的に運営を行った。昨年度見直した授業評価アンケートの運用を開始するとともに、臨地実習評価アンケートの改訂を行い、評価体制の充実を図った。アンケート項目の精選により学生負担の軽減を図ったものの、回答率にはばらつきがみられたため、回答時間の確保や依頼時期の工夫により改善を図る。また、外部アンケートとして新教育課程卒業生と就職先への調査を実施し、教育成果の多面的検証体制を整備している。 カリキュラム改善においては、シラバス会議を夏期休業期間に移行し計画的に実施した。次年度に向けた具体的改善策として、ICT・生成AI活用、コンセプトマップ導入、技術試験の見直し、プロセスレコード活用、看護の省察の導入、クリティカルシンキングでの内容再構築等を検討した。加えて、看護過程・臨床判断・シミュレーション演習の積み上げを可視化する教育マトリクスの作成を継続検討しており、教育内容の体系化と一元的把握による改善を推進している。 C-Learningを活用した教材共有および出席管理を推進し、授業実施においては、学生の自己管理能力向上がみられる一方で、入力漏れ等への継続指導が必要である。演習用シミュレーターの経年劣化に伴う不具合については、計画的な保守管理を実施する。ICT環境整備については、中期的視点に立ち、ICT検討会と協働しながら臨地実習支援システム導入およびピア・ルーム拡張計画を進めている。 評価項目7「評価について公平性・妥当性が保たれ	評価点【 4.8 】 ・カリキュラム評価の指標として、授業評価(講義、実習)、学生カリキュラム評価、カリキュラムループブック、授業態度アンケート、成績、単位修得状況、看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標、技術経験録、国家試験結果、就職進学状況など、多くの指標の評価をカリキュラム運営の成果と課題を明確化することに取り組もうとしていることが理解できた。 ・授業評価の回答率のばらつきについて、回答項目を減らしたり、学科試験後の残り時間に回答する時間を設けたりと工夫しても回答数の大きな変化はなかったが、令和8年度も継続していくことを理解した。 ・ピア・ラーニングルームを活用したシミュレーション演習が定着し、より効果的な内容にするために情報科学室のレイアウトを変更し、多目的に使える部屋にしたいと考えていて、具体的な構想があることを理解した。 ・令和7年8月より合理的配慮ガイドラインの実施、公平性に対する疑義に対する検証においても問題がないようだが、精神面の合理的配慮は難しいということが認識できた。 ・臨地実習技術水準に基づく学生の感染対策指導について、病棟によってルールが異なったり、学習機会が制限されたりすることの対策として、抗がん剤を

	ているか」(評価4.9)では、評価基準の公表・説明は適切に行われているが、形成的評価および評価プロセスの可視化、合理的配慮に関する公平性について懸念が示された。評価基準、合理的配慮ガイドラインに基づく協議体制、および教員間の共通理解の深化を図り、学生の納得性と公平性の両立を目指す。 評価項目8「実習時の安全体制が整っているか」(評価4.9)では、医療安全教育および感染対策は体系的に実施されている。新教育課程の実習指導要項を活用し、実習指導者会議を通して連携を強化した。一方、臨地実習技術水準に基づく学生の感染対策指導について課題が指摘されており、実習施設との連携強化および教員間での検討を継続し、安全で質の高い実習環境の整備を一層推進する。	投与された患者さんを受け持つ際の学生ルールを見直していく予定であることを確認できた。
Ⅲ 学修成果 (3 項目)	評価点【 5.0 】 Ⅲ「学修成果」に関する自己評価は4.9～5.0と極めて高い評価を得ており、本校の教育成果は着実に向上していると評価する。 評価項目9「学生の単位修得に向けた支援を実施しているか」(評価4.9)では、単位未修得学生に対する自己分析指導および個別支援を継続している。再試験願の様式を見直し、未修得理由の自己分析および学習改善計画を明確化する仕組みを導入した。本取り組みは今年度開始であり、次年度に効果検証を行い改善を図る。 評価項目10「国家試験の合格率が100%となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか」(評価5.0)では、1年次から計画的に国家試験対策を実施し、時間割内に学習時間を確保するなど組織的に取り組んだ結果、国家試験合格率は本年度も全国平均を上回った。教職員の連携体制が成果に結びついている。 評価項目11「退学率の低減を図っているか」(評価5.0)では、主担当を中心に学年担当教員間で学生情報を共有し、必要に応じて個別面談を実施するなど、早期支援体制が機能している。C-Learningによるカウンセリング申込体制を整備したが利用件数は限定的であった。教員による日常的な相談対応が機能していることも一因と考えられるが、引き続き相談窓口の周知と支援体制の充実を図る。	評価点【 4.8 】 ・単位習得に向けた再試験において、再試験願の様式に再試験までの学習計画を記入しての指導や再試験当日に学習内容を提出するように運用を変更し、単位未修得者が減少する成果で出ていることを確認できた。
Ⅳ 入学・卒業、就職・進路支援 (3 項目)	評価点【 5.0 】 Ⅳ「入学・卒業、就職・進路支援」に関する自己評価では、入学者確保から在学中の進路支援、卒業後のフォローアップに至るまで、切れ目のない支援体制が構築されており、全体として非常に高い評価が得られた。 入学応募者確保に向けた取り組みでは、高等学校等への訪問や、就職・国家試験・進学実績の公表、オ	評価点【 5.0 】 ・入学応募者確保に向けた取り組みとして、初めて春にも地域外の周辺校へ情報収集及び広報を目的とした訪問を実施したことは評価できる。 ・卒業生への支援として、

	オープンキャンパスや個別学校見学への柔軟な対応などが評価されている。特に、既卒者限定入学相談会の継続や、校内入試検討会における入試制度・選抜方法の戦略的な検討は、多様な志願者層への対応として有効である。また、初の試みとして春の高校訪問を計画している点は、今後の広報・募集活動の強化につながる取り組みとして注目される。 就職・進路支援については、計画的な支援と教職員間の連携が高く評価されている。推薦入学者の増加に伴い、富土地域での就職率が高水準で安定している点は、地域と連携した支援が成果を上げていることを示している。加えて、学生一人ひとりの特性を生かした個別支援が行われており、学生の希望や適性に応じた進路選択を支える体制が整っている。 卒業生への支援についても、就業継続支援やホームカミングデイの実施、図書室の利用、卒業生や中途退職者への就職相談対応など、卒業後も学校とのつながりを維持する取り組みが評価されている。 一方で、評価点にはわずかな差が見られ、支援内容や成果の「見える化」が十分でない部分が課題として挙げられる。次年度に向けては、①高校訪問やオープンキャンパスの効果検証を踏まえた募集戦略の改善、②卒業生支援の内容や活用状況の整理と周知を進める必要がある。これらを通して、入学から卒業後まで一貫した支援の充実を図っていきたい。	学校のウェブサイトの卒業生のページを充実させるため、令和8年度にウェブサイトのリニューアルする予定であることを嬉しく思う。
V 学生生活への支援 (3項目)	評価点【 4.9 】 V「学生生活への支援」に関する自己評価では、健康管理面、精神面、経済面からの学業継続支援体制が整備されており、全体として高い評価が得られた。特に、健康診断後の指導・相談体制や、カウンセラーの存在と役割の周知については満点評価であり、学生の心身の健康を支える基盤が確立されている点が大きな強みである。 精神面の支援では、カウンセリング体制や「なんでも相談窓口」を設け、学生が相談しやすい環境づくりに取り組んでいる。相談件数は多くはないものの、安心して相談できる窓口があること自体が学生の心理的な支えとなっている。一方で、利用が限定的であることから、支援の周知方法や利用しやすさの工夫が今後の課題である。 経済面の支援については、奨学金制度や授業料減額免除等に関する情報提供と相談対応が丁寧に行われており、特に修学支援制度における多子世帯へのきめ細かな対応が評価されている。また、合理的配慮ガイドラインに基づき、個々の学生の状況に応じた支援を具体的に実施しており、学業継続を支える実践的な取り組みが進められている。	評価点【 4.8 】 ・コロナ禍で中止されていたクラブ活動が、コロナ禍後も学生に関心がなく再開されていないことを理解した。希望のあるグループでの体育館施設利用のニーズに対して支援を期待する。

	学生の自主的な活動支援では、学生自治会への支援体制が整っている点は評価できるが、クラブ活動等の実績が十分に生まれていない点が課題である。活動の立ち上げに至らない場合でも、施設利用のみの相談を含め柔軟に対応していることから、学生の関心やニーズに応じた支援の在り方をさらに検討する必要がある。	
VI 財政、施設設備の管理 (4 項目)	評価点【 4.9 】 VI「財政、施設設備の管理」に関する自己評価では、予算執行、危機管理、施設・設備の安全確保の各面において計画的な運営が行われており、全体として高い評価が得られた。特に、年間計画に基づく予算および事業執行は適切に管理されており、直接予算に関与しない職員においても、経費を意識した業務遂行がなされている点は、組織全体で財政意識が共有されていることを示している。 設備・備品の整備については、中期的な視点に立ち、ICT検討会と連携して計画的に検討が進められている。臨地実習支援システムの導入やピア・ルーム拡張計画など、教育効果の向上を見据えた取り組みが評価されている。また、経費削減についても組織的に取り組まれており、効率的な学校運営が図られている。 災害など非常時への対応については、防災訓練を年1回実施し、避難訓練・消火訓練・煙ハウス体験を組み合わせた実践的な内容となっている点が高く評価された。危機管理マニュアルの刷新や、学生用の食料・飲料水、簡易トイレの備蓄も行われており、基本的な危機管理体制は整備されている。一方で、防犯・交通安全対策については、さらなる強化の必要性が指摘されており、啓発活動とあわせて具体的な対策の検討が課題である。また、備蓄内容については定期的な点検・確認が求められる。 施設・設備および教材については、耐震基準や指定規則を満たし、安全性確保に向けた点検・改善が継続的に行われている。しかし、学生の自主的な学修の場については、空調環境や学修スペース、グループ学修場所の不足など、他項目と比べて評価がやや低く、快適性の面で改善が必要である。図書室の温熱環境についても課題が示されている。 次年度に向けては、①中期的な予算・設備計画の策定、②防災・防犯対策の実効性向上、③施設・教材の安全点検の継続、④学生の自主的な学修を支える快適で柔軟な学修環境の整備を進め、安心・安全で学びやすい教育環境の充実を図っていきたい。	評価点【 4.8 】 ・備品の管理について、備えておかなければならない備品は、学校運営の指導ガイドラインという県のガイドラインにも則って、看護の学習ができるように適切に備えていることが確認できた。
VII 教職員の能力向上	評価点【 4.8 】 VII「教職員の能力向上」に関する自己評価は4.8～4.9であり、組織的な人材育成体制は概ね整備されて	評価点【 4.8 】 ・学内演習で演習協力教員に意見を出し合っている

(2 項目)	いると評価する。 評価項目22「教員は看護教育力向上に努めているか」(評価4.9)では、看護教員ラダーを活用し、新人および中堅教員の計画的育成を継続している。授業参観や公開授業の機会拡充が今後の課題である。 評価項目23「教員の能力向上に対する取り組みを支援する環境があるか」(評価4.8)では、学校課題を踏まえた「看護教育研修会」を実施し、学会・研修参加後の成果共有を行っている。また、教務主任養成講習会受講予定など、次世代管理者育成にも取り組んでいる。業務KYTの継続実施により業務改善を図っているが、改善事項の定着確認が今後の課題である。授業準備および自己研鑽の時間確保に向け、業務効率化を継続的に推進する。	ことや新任教員に授業参観や公開授業の制度を周知していく計画であることを理解した。ぜひ、活発に行われることを期待する。
VIII 広報・地域活動 (2 項目)	評価点【 5.0 】 VIII「広報・地域活動」に関する自己評価では、計画的な広報活動と地域に根ざした取り組みが継続的に行われており、全体として高い評価が得られた。前年度評価を踏まえた広報計画を年度当初に策定し、学生確保対策担当者会を中心に組織的に取り組んでいる点は、本校の広報活動の強みである。 学校の情報発信については、ホームページの定期的な更新に加え、WEBやSNSを活用した積極的な情報発信が行われている。SNSへのリンクを増やすなど、閲覧者が新しい情報にアクセスしやすい工夫もなされており、評価点は高水準を維持している。また、地域イベント、キッズジョブ等を通じた学校独自の広報活動も継続され、学校の認知度向上に寄与している。 一方で、受験生数の減少傾向を背景に、学生確保に向けた広報活動のさらなる強化が課題として挙げられている。オープンキャンパスについては、開催時期の見直しなどの工夫が行われているものの、参加者数の大幅な増加にはつながっておらず、根本的な戦略の再検討が必要である点が注目される。評価点は高いものの、成果の実感という面では改善の余地がある。 地域活動については、地域ボランティア活動への参加促進や、学校独自の地域社会活動が評価され、すべての評価指標で満点となっている。ボランティア依頼の増加や、地域行事・イベントへの参加を通して、地域社会の一員としての役割を着実に果たしていることが確認できる。 次年度に向けては、①受験生減少を踏まえた広報戦略の重点化とターゲットの明確化、②WEB・SNSを活用した情報発信内容の質的向上、③オープンキャンパスの目的や構成の再検討、④地域活動の成果を広報と結び付けた効果的な発信を進めることが重要である。これらを通して、地域に信頼され、選ばれる学校づ	評価点【 4.8 】 ・3年課程の看護師養成所は全国的に深刻な減少で、定員割れが続いている専門学校も多いのが現状の中、定員を確保していることを評価する。また、社会人入試など入試制度・選抜方法の検討についても期待する。

	くりを一層推進していきたい。	
--	----------------	--

◆学校評価委員会

委員長 富士市立看護専門学校 校長

委 員 富士市保健部長

富士市立看護専門学校 副校長

富士市立中央病院副院長兼看護部長

元富士市立看護専門学校 副校長

富士市立看護専門学校同窓会長

保護者代表